

御正忌報恩講の「お齋」は、報恩講がはじまった当初から、全国各地の「講」や御同行によって持ち寄られた、蓮根・椎茸・大根などの食材で食事を作り、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲びながらいただいたことに由来しています。現在もその伝統を受け継ぎ、全国各地の「講」から持ち寄られた食材によって調理されています。ぜひご賞味ください。

なお、お齋におつきいだいた方を対象に、期間限定で東本願寺のお酒「五環正宗」を頒布いたしますので、この機会にお求めください。



日時 11月22日(水)～28日(火)

1回目(150席) 11時30分～
2回目(150席) 12時30分～
※25・28日は2回目(300席)のみ

場所 大寝殿おおしんでん

冥加金 お一人 3,800円

※食数に限りがありますが、当日券も若干ご用意しておりますので、ご希望の方は、境内の受付テントにお問い合わせください。

報恩講 お齋のご案内

帰敬式は、古くから「おかみそり」ともいわれ、人として生まれた意義と生きる喜びを見いだしたいと願う私たちにとって、如来の教えを依り処として歩んでいくことを誓う大切な儀式です。この帰敬式では、「おかみそり」を受け、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓い、法名をいただきます。

仏・法・僧の三宝に帰依するとは、自ら真実に目覚め、その真実の教えを説かれた釈迦如来をはじめ諸仏

(仏)に帰依し、その教え(法)を大切に聞き、あらゆる人々と共に同朋の交わり(僧・僧伽)を実現せんと願うことです。また、法名とは、如来の教えを依り処として人生を歩む仏弟子としての名告りを表すものです。

念仏申す生活の中に如来の本願のおこころを聞きひらき、あらゆる人々を御同朋御同行として敬われた親鸞聖人を宗祖と仰ぎ、共に仏道を歩む真宗門徒になろうとする出発式が帰敬式なのです。

帰敬式



21日は讃仰法要(音楽法要)後、22日～27日は日中法要後に帰敬式を執り行います。受式を希望される方は、当日9時から9時30分までに参拝接待所にてお申し込みください。

21歳以上 お一人1万円
礼金 20歳以下 お一人5千円

【報恩講期間中の受式に関するお問い合わせ】本廟部(参拝接待所)TEL:075-371-9210

【その他帰敬式全般に関するお問い合わせ】

研修部(帰敬式実践運動推進事務室)TEL:075-371-9185

※20日及び28日は執行されません。

※11月20日から28日の真宗本願取骨・本山永代経・本山申経のお取り扱いはございません。ご遺骨を持参された方は、本廟部参拝接待所にてお預かりし、11月29日に収めさせていただきます。

「お齋」の献立は一汁三菜が基本となっており、汁はけんちん汁、三菜は焚物、合物、風呂吹き大根で、ご飯と香物がつきます。また、かつて「お齋」は、全国から参拝されたご門徒の方々が各地へ持ち帰り、上山できなかつたご門徒と御正忌報恩講に出遇えた喜びを分かち合い食したと伝えられています。現在はその名残りとして、饅頭・お酒(五環正宗)・みかんをお持ち帰りいただいています。

